

■美脚

90年代以降、レディス分野で、自分の身体、特に「脚（あし）」を長く、スラリと見せたいという消費者の願望に応じて企画されたジーンズが流行している。

■イージーパンツ

通常のジーンズが身体にピッタリとフィットして、余裕が少ないのに対して、ゆったりとした型紙や伸縮性のある素材などを使ったジーンズパンツ類の総称。

■ビンテージ

「ヴィンテージ」の項参照。

■シルエット

Silhouette；元来はフランス語で「影」の意味。ファッション用語では、ある衣服のたまかな形、細さ、太さ、長さなどの組み合わせで構成される外観上のかたちのこと。「細身シルエット」、「バギーのシルエット」などと表現する。

■小尻

最近の日本の女性は自分のヒップを小さく見せる願望が多い。それらの欲求の合わせたシルエットのジーンズが隆盛である。

■スレンダー

S l e n d e r；[ほっそりした]シルエットで、通常スソにかけて多少の広がりをもったジーンズのかたちのこと。

■中古感覚

新製品のジーンズを長期間着込んだかのように、表面の部分的色落ち、かすれ、穴などの工業的加工を施す目的のこと。

■デザインパンツ

基本的なジーンズの形（5ポケット）とはことなり、各種の個性的なデザイン処理を売り物にするジーンズパンツのこと。1970年代後半に流行したが、また最近復活の現象もある。

■ユーズド加工

U s e d；「使いふるした」かのような外観にするジーンズの後加工。「中古感覚」の項参照。

■アンチフィット

Antifit；「フィット」の反対に「身体にピッタリとは合わない」つまり「ルーズ」な型紙、シルエットのこと。身体のラインを強調しないファッションがかえって新鮮に感じられることもある。

■ユニセックス

Unisex；男女を問わない、つまり「単一の性別」のこと。ジーンズファッションは色柄、素材など男女共通の商品企画が可能である。

■腰ばき

ジーンズなどのはきこなし方の一種。ウエスト部分を腰より低い位置に下げてややルーズに見せる。やや不良っぽい感覚ながら、ワイルドな新感覚で一部流行している。

■プレミアム・ジーンズ

Premium jeans ; 「プレミアム」(特別割増価格)の価値のあるほどのジーンズの意味が語源。通常欧米の著名なデザイナーのジーンズなどをさすが、最近では1万数千円以上の価格でデパート、専門店などで販売される高価格ジーンズを意味する。

〔代表的なものは下記の通り〕

●ウォッシュアウト・ジーンズ

(Wash-out jeans)

ウォッシュアウトは「洗いざらしの」「色のさめた」といった意味で使われている。つまり、ブルー・ジーンズを5回ほど水洗いした感じのものをいう。ブリーチアウト・ジーンズと本来のインディゴ・ブルー・ジーンズの中間の感覚を狙ってつくられたもの。

●ウォームアップ・ジーンズ

(Warm up jeans)

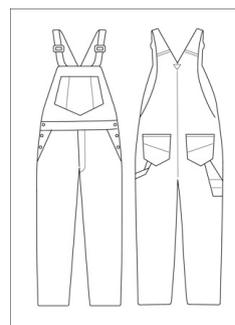
裏をキルティング使いにしたり、ネルを貼り合わせたりして、暖かさを追求すると同時にロールアップ(裾を)したファッション性を楽しむジーンズ。

●オーバーオール・ジーンズ

(Overall jeans)

胸あてつきジーンズのこと。この胸あてのことをビブといい、オリジナルのそれはビブ・オーバーオールなどと呼ばれる。胸あての上部に巾広のサスペンダーがくりつけになり肩で吊ってはかれる。別にカーペンター・ジーンズ、サロペットということもある。

また機械工に多く用いられたことから、メカニシアン・オーバーオールの名もある。本来これは服の上にはかれたものである。



●カーペンター・ジーンズ

(Carpenter jeans)

ワークウェア(作業着)の一種であるが、特に股上が深く、全体のシルエットがゆったりしていて、ビッグサイズのバック・ポケット、サイド・ループにサイド・ポケットが付いているものを他のワークウェアと区別して呼んでいる。

●カットオフ・ジーンズ

(Cut off jeans)

カットオフ「切り離す」の意。ズボンの裾を切り離したショーツ型のジーンズのこと。多くはもものあたりで無雑作に切り落とし、切りっ放しのままではかれる。

●カラー・ジーンズ (Color jeans)

ブルー以外のデニムを使ったジーンズ。白から黒まであらゆる色ものがある。

●クラシック・ジーンズ (Classic jeans)

ジーンズの原型を保った、ほんもののジーンズの意味。また、ファッション・ジーンズ以外のオーソドックスなそれをいう。すなわち、リーバイ・ストラウスがジーンズを発明した1850年から、およそジーンズ

がファッションとしてブームを呼ぶまでのジーンズをさす。あくまでもブルー・デニムを中心としたジーンズらしいジーンズをいう。

●クロップド・ジーンズ (Cropped jeans)

女性向ジーンズでまた下丈の短いものの一種。ひざとくるぶしの中間程度の丈の長さで、スリム系のシルエットのものが多く。語源としては、クロップ CROP「刈り取る」の意味からきたとされる。ミュール・サンダルとの組み合わせで軽快な着こなしがポイント。

●コスチューム・ジーンズ (Costume jeans)

舞台衣装などに見られる派手なジーンズのこと。スタッドを打ったり模造宝石を飾りつけたり、ラメ入りのものなど装飾が施されたジーンズ。装飾ジーンズ。

●シガレット・ジーンズ (Cigarette jeans)

葉巻きタバコのようなシルエットをしたジーンズの総称。

●ジェントリー・フレアード・ジーンズ (Gently flared jeans)

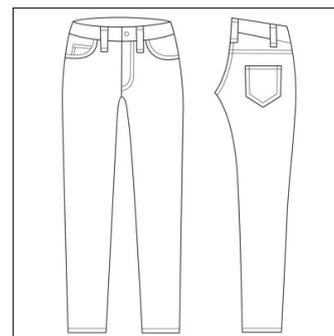
フレアード・タイプに見られる広がりや、いくぶん少なめにした上品な感じのシルエット。普通のストレート・タイプのものに少しフレアを加えた雰囲気。ニュートラディショナル・タイプのスラックス。ソフト・フレアード (Soft flared)。

●ヴィンテージ・ジーンズ (Vintage jeans)

元来ヴィンテージとは VINTAGE の語源のとおり「年代物のワインや酒」という意味であり、好事家が古いわれのある珍品を貴重品として呼ぶならわしから発生した。転じて、ジーンズの世界でも、アメリカ本国の古い年代物の古着ジーンズを中古市場で売買する現象を生んできた。そして実物として古いジーンズだけでなく、人工的なストーンウォッシュや穴あけなどでわざと古い年代物に見せかけたものも、ヴィンテージ風ジーンズということもある。

●スーパースリム・ジーンズ (Super slim jeans)

極端に脚にフィットした細身のジーンズ、ときには脚より細いと思われるほどスリムなものだが、若い人のジーンズとして安定した人気を保っている。多くはアメリカン・カジュアル向きのパンツだが、これをより長く着こなし、前裾にスリットを入れ、ハイヒールシューズとともにヨーロッパ派を気取る人たちもいる。



●カプリパンツ (Capri pants)

婦人物でひざ上までの長さのジーンズパンツのこと。地中海のカプリ島などのリゾート地で軽快にはきこなすイメージからのネーミング。街着としてもおしゃれなファッションである。

●エンジニアード・ジーンズ (Engineered jeans)

「エンジニアード」を意識すれば、「工学技術的」に改革されたとも言うか、3次元である身体の構造に合わせる効果があるために、「立体裁断ジーンズ」とも言う。元来ジーンズは、ヨークや身頃など直線的なカッティング手法で、身体の立体をカバーした合理的な衣服であったが、デニムの綾織りの特性や、ひざの屈伸が原因で、脚の部分が斜行する傾向があった。これを改め、わき線をカーブさせるなど、身頃を大巾に異形にしたジーンズが開発された。

● スキニー・ジーンズ (Skinny jeans)

スーパー・スリムジーンズの別名。脚にピッタリまつわりついた、つまり皮膚のようなジーンズという意味である。

●ステータス・ジーンズ (Status jeans)

デザイナージーンズと同義。ステータスは「地位、身分」を指す言葉で、それを着いた人が社会的満足を得るということになる。ブルーデニム使いのストレートやスリム型が多い。

●スパッツ (SPATS)

元来は（くるぶしの上まである短いゲートル）の意でひざから下の部分の衣服（ないしはき物）であったが。現在のスパッツは、極めて細身で腰や両足をつつみ、身体の動きにつれて伸び縮み出来るようなストレッチ素材をもちいたボトムの種類をさす。ニット類が多用されているが、伸びるデニムなどの布帛も多い。特に女性がスマートな身のこなしや生活感を楽しむファッションとして着用することが多く、ジーンズの世界でも重要なアイテムの一つである。

尚、足裏にかけてループをひっかけて両足部分を伸ばす構造のものもある。

●ストーブパイプ・ジーンズ (Stove pipe jeans)

文字どおり、ストーブのパイプ（煙突）のような形を特徴とする全体に細目のジーンズをさす。別名「パイプ・ステム」とも呼ばれている。

●ストレート (Straight)

上から下までほとんど直線的なシルエットをさす。ズボンのシルエットの基準でもあることから「レギュラータイプ」ともいう。

●ストレッチ・ジーンズ (Stretch jeans)

身体の動きに合わせて、伸び縮みするジーンズのこと。生地の種類によって「たて伸び」、「よこ伸び」、そして両方とも伸びる「ツーウェイ」（2 方向）がある。脚の曲げのばしなどの運動機能にすぐれているのは、「たて伸び」であるが、最近では、女性のスマートなシルエットに見せたいという願望にこたえた、「よこ伸び」のものが主流である。いずれも綿糸の中心（コア）にスパンデックス弾性糸を巻き込んだ構造の糸を使用しているものが多い。

●製品染ジーンズ

通常、カラージーンズは、すでに生地（原反）段階で染色されたものを裁断、縫製してジーンズ製品に仕上げる。これに対して、染色されていない生地をまず裁断、縫製して形のあるジーンズにしてから好みの色に染める。つまりジーンズ製品をそのまま、染色機械に入れて完成させる工程の商品を製品染という。流行の移り変わりに合わせて迅速に製造出来るメリットがある。

●セミ・バギー (Semi-baggy)

バギー・シルエットをおとなしくしたもの。裾幅やモモのあたりが、バギーに比べて誇張の少ないのが特徴。

●テーパード・ジーンズ (Tapered jeans)

太ももからスソにむかって細くなるシルエット。英語の「TAPERED」には、「先細となる」「次第に小さくなる」などの意味がある。

●ディナー・ジーンズ (Dinner jeans)

ドレスアップ感覚を盛り込んだ都会風のジーンズ。従来の着こなしと異なり、テーラードなジャケットやブルゾンにも合わせることができ、ネクタイをあしらっても着こなせるというのが特徴。

●デザイナー・ジーンズ (Designer's jeans)

ファッション・デザイナーによって独自に商品化されたジーンズ。1978年ごろから米国で爆発的な人気を得て、現在日本に続々と紹介されている。カルバン・クライン、サッスーン、バンダー・ビルト等がそれでデザイナーの名前をバックに施しており一般のジーンズより価格は高い。

●ニュースリム・ジーンズ (New slim jeans)

最近の傾向で新しい細身タイプのジーンズ。股上が深く、腰はピッタリフィットしているが、モモには余裕あり、ヒザから裾が細くなっているものもある。

●バギー (Baggy)

ウエストにプリーツが2本はいる、股上の深い、全体にタププリした袋のようなシルエット。

●パターンド・ジーンズ (Patterned jeans)

レギュラーやカラー・ジーンズの色無地に対して、ストライプやチェック、プリント柄などのジーンズのこと。使用生地はデニムが主だが、その他の柄・生地を使ったものまでふくむことがある。

●ファッション・ジーンズ (Fashion jeans)

オーセンチック（真正の）なジーンズ以外のジーンズをいう意味合いが強く、ファッション的な要素を多くとり入れたジーンズの総称とされている。これには素材をデニム以外のものにおきかえたタイプとディテールをファンシーなものにしたタイプの2とおりの考え方がある。前者にはカラー・ジーンズやウール・ジーンズ、後者にはバギー・ジーンズ、ボタン・アップ・ジーンズなどがある。

●ファスト・バック・ジーンズ (Fastback jeans)

バック・ヨークの部分に隠しポケットを切りこんだスタイルのものファッションジーンズの種類。

●フェード・アウト・ジーンズ (Fade out jeans)

フェード・アウト（音や映像が自然に消えてゆく）同義で、洗いざらして自然にさめた色になったジーンズをいう。中古風な味わいをもたせたジーンズ。

●ブーツ・カット・ジーンズ (Boot-cut jeans)

ウエスタン・ブーツをはきやすくするためと、はいたときに裾のシルエットがきれいに出るようにとの配慮から、裾をわずかにフレアード（広げ）させたジーンズ。

●ブラック・ジーンズ (Black jeans)

黒のジーンズ、ファッションブルなジーンズの代表として注目されている。黒のデニムを使ったものをブラック・デニム・ジーンズという。その他、サテンやギャバジンなどといった光沢のあるドレスシーなものを使ったものはエレガンスであると同時に男っぽいジーンズとしても独得の味を秘めている。



●ブリーチド・ジーンズ (Bleached jeans)

ブリーチアウト・ジーンズともいうように、インディゴ・ブルーのジーンズに漂白剤を使って白くサラシ

たジーンズのこと。

●フレアード (Flared)

モモから裾口にかけての広がりの特徴とする。パンタロン型である。

●フレンチ・ジーンズ (French jeans)

ヨーロッパ調のしゃれたジーンズをいう総称。この場合のフレンチはフランス産のという意味で用いられている。

●ペグトップ・ジーンズ (Peg-top jeans)

腰まわりをゆったりととり、裾口へいくにしたがって極端に細くしたシルエットを特徴とするズボン。

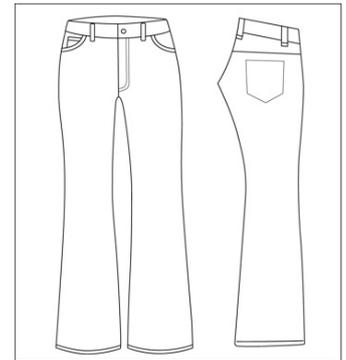
現在、ボンタン、ニューバギーとも呼ばれ若い女性の間で特に人気がある。

●ローライズ・ジーンズ (Low rise jeans)

女性用のジーンズでまた上丈の短いものを言う。通常は両足の分岐する前部位から、ウエストベルトの上端までが、約 24~26 センチであるのに対し、約 20 センチ前後まで短い。結果として夏はおへそが見えたりするが、裾の短い上衣と組合せて若さを強調するなどのファッションとなる。ライズ rise はまた上長の意味。逆にまた下長が長く、腹部をつつみこむほどのものをハイライズ・ジーンズと言う。又ローライズジーンズは、女性の両腰骨の上端の部分で、ジーンズを支える感覚もあるので、ヒップボーン・ジーンズとも言う。

●ベルボトム (Bell bottom)

「ラッパ・ズボン」とも呼ばれる。鐘 (ベル) の下部といった意味で、裾広がり of シルエットを特徴とする裾広がりといっても、厳密に言えば、これはヒップから膝にかけて、比較的フィットし、膝下から裾にかけて鐘の形のようにゆるやかに広がったタイプを意味している。極端に裾広がりになったものはエレファント・ベル、またヒップ下から広がったものはセーラー・パンツの名称で呼ばれる。



●ボールド・ジーンズ (Bold jeans)

40 年~50 年代のアメリカのボールド・ルックを背景にワーク感覚をもってデザインされただぶだぶシルエットのジーンズの一群を呼ぶ。ジャズマンスタイル、又はロックンローラーの遊び心に富んだ古き良き時代のジーンズ。

●リアル・ジーンズ (Real jeans)

本物のジーンズということで、最近の新しいタイプの各種ジーンズに対して使われている言葉。普通のブルージーンズをさす。

●立体的裁断ジーンズ

ジーンズは伝統的に直線のカッティングが主流であったが、人体の形や動き特にヒザの屈曲に合わせて曲線に裁断したジーンズが企画され流行した。エンジニアードジーンズともいう。

●リメイク・ジーンズ (Remake jeans)

小さくてはけなくなったり、ボロボロになったりしたジーンズを寄せ集めて 1 本分の生地にし、それを仕立て直した「再生ジーンズ」のこと。

最近では工業的な大量生産品もある。

●レギュラー・ジーンズ (Regular jeans)

ベーシック・ブルージーンズ (Basic blue jeans)

ジーンズの中で、最も基本的なもの、ジーパン、ウエスタンパンツともいう。使用生地は6~14オンスのブルーデニム。基本的な特徴は平面裁断で、表縫いの2本ステッチ、はりつけポケット、後ポケットの右上にメーカー名の入った皮(ボンテックスという特殊な厚紙)が縫いつけてあり、スタイルはスリム型ないし、ストレート型、ベルトループは5~6センチのベルトを通せること。

●ロールアップ・ジーンズ (Roll-up jeans)

裾をまくり上げたジーンズ。わざとそうやって着こなしたジーンズ。ルックのことで最初から折り返してあるジーンズのふたつの意味がある。前者は着こなしのテクニックのひとつであり、これに派手なソックスを合わせるなどして、一層の効果を演出する。後者の場合、折り返した部分にタータン・チェックを配するなどの工夫をほどこしている。

●ワーク・ジーンズ (Work jeans)

作業用ジーンズという直訳がなされるが、むしろインディゴ・ブルー、14オンスデニムの昔ながらのストレート・ジーンズ、および、それに付随するブルー・デニムのオーバー・オール、ブッシュ・ジーンズなどをいうニュアンスが近い。いわばファッション・ジーンズの対極に位置するもので、本当にジーンズらしいジーンズといった感覚のもの。

●クライド・パンツ (Clyde pants)

30年代のギャング「ボニーとクライド」を主人公とした映画で、サスペンダーで吊ってはいた、クラシック、かつアメリカ農夫を思わせるイメージをもったパンツ。

●クライマー・パンツ (Climber pants)

クライマーは「登山者」のこと。登山用のヘビーデューティなつくりのパンツのデザイン・機能箇所をモチーフしたパンツ。膝下がコットン厚地で二重になったりしたもの。

●グルカ・パンツ (Gurkha pants)

最大の特長は、ウエスト・ベルトのデザインにあり、ヒモと尾錠で前を留める仕掛けになっている。グルカは旧英領のインド軍のグルカ兵にちなむ。こうしたデザインがアイビー調のパンツ、ショーツ、スカートにも取り入れられている。

●サブリーナ・パンツ (Sabrina pants)

映画「麗しのサブリーナ」でオードリー・ヘップバーンがはいて流行したパンツだがこれを現代的にデザインしたもの。脚にピタリフィットした細身のパンツで、ふくらはぎの中位置の長さの7分丈が特長。

●ジョドパーズ・パンツ (Jodhpurs pants)

ジョッパーともいう。即ち、乗馬ズボン。パンツブームで、乗馬ズボンのモモの部分のふくらみを抑え、裾丈も長くしてよりカジュアルなパンツにしたもの。

●ズート・パンツ (Zoot pants)

40年代初めのアメリカを中心に流行したダブダブで極端に太いシルエットを特徴とするパンツ。深い股上をサスペンダーで吊ってはくルーズシルエットもの。

●ブッシュ・パンツ (Bush pants)

ヘビーデューティ・ファッションには必携のもの。トレイル・パンツとも呼ばれ、フロントのループとポケットがひとつづきで、股上が深く、モモのあたりがゆったりとしているのが特徴のパンツ。

●ボンディング・パンツ (Bonding pants)

ボンディングは「貼り合わせ生地」を言う。表裏に対称的な色や柄の生地を貼り合わせ、裾をロールアップ（まくりあげ）したりポケット口に使い、カジュアルさを強調したパンツ。

●マイル・パンツ (Mile pants)

自宅を中心とした買い物や散歩などの普段着的感觉とおしゃれ感をミックスしたパンツ。

●マリン・ショーツ (Marine shorts)

海のイメージのショーツ・パンツ。マリン・ルックの流行からおしゃれ性をもったパンツで、必ずしも海で用いるショーツではない。

●ミリタリー・ショーツ (Military shorts)

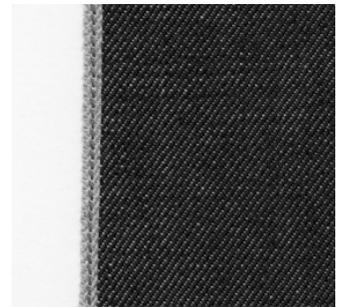
軍隊のイメージのショーツ・パンツ。たっぷりしたシルエットの膝上丈のパンツで、ウエスト部分がアジャスト・タブなどで機能的で、クラシックな味をもっている。

5. ディテールの用語

ジーンズに関するディテールの用語は次の通り。

●赤耳・セルビッチ (SELVEDGE)

デニムの生地がまだ古い型の中のせまい織機（産業革命時代からつづく力織機など）で織られている場合耳の部分に経方向に一連の赤い糸が使われていて、丁度生地の横方向の末端を示していた。古いジーンズを縫い上げると一着一着の脇の縫い合わせにこの赤い部分が目立つ構造になっていた。現代では、このようなジーンズは近代的工程の産物ではないが、却って古い良き時代のジーンズリバイバルとして「復刻版」として再び生産されるようになった。当然ロールアップして裏を見せるはき方が着こなしのポイントである。



(1) ポケット (Pocket)

●ウエスタン・ポケット (Western Pocket)

“フロンティア・ポケット”と呼ばれているもの。クラシックジーンズのポケットはすべて、このデザイン。

●ウエスタン・フラップ・ポケット (Western flap Pocket)

ウエスタン・シャツ特有の変わりフラップ・ポケットをさす。変形フラップには、扇型、二つ山、三つ山、変型扇型などがある。

●ウォッチ・ポケット (Watch pocket)

元来は懐中時計を入れるためのポケットとして考案された小型ポケットだが、今では小銭など小物を入れるものになってきている。

●Lポケット (L pocket)

直角形のポケット、L字型ポケットのこと。

●カーゴ（バッグ）ポケット（Cargo bag Pocket）

丁度、バックの脇に見られるような折りたたみを、特徴としたもの。ゴルフスラックスのポケットに、このデザインが多い。

●サファリ・ポケット（Safari pocket）

サファリ・ジャケットのポケットに見られるような、フラップ付きのブリーツポケットをジーンズに付けたもの。

●シャーリング・トップ・ポケット（Shearing top Pocket）

ゴム糸で布地を縫い縮めてヒダを出すことをシャーリングといい、ポケットの上端をシャーリングしたポケットのこと。

●スランテッド・ポケット（Slanted pocket）

スラントとは「斜めの」「傾斜した」の意味。やや斜めにつけられたポケットのこと。スランディング・ポケットまたはアングルド・ポケットともいう。

●パッチ・ポケット（Patch pocket）

貼り付ポケットのことで、その形はさまざまである。

●フォア・パッチ・ポケット（Four patch pocket）

普通ジーンズのパッチポケットはバックに2個つけられているだけだが、それと同じものを前にも2個つけたスタイル。もともとは、フランスのジーンズに多くみられた。

●フラップ・ポケット（Flap pocket）

雨ぶたのついたポケットのこと。スポーティなスラックスやシャツに良く似合う。

(2) ライズ（Rise）

股上のこと。股上の浅いものを“ロウ・ライザー”、中間のものを“ミド・ライザー”そして深いものを“ハイ・ライザー”と区別している。

(3) バック・ヨーク（Back yoke）

ジーンズの特徴の一つ。後の切りかえのこと。これはヒップ周辺をフィットさせるための独得なカットのことで、普通のズボンにダーツをとることで尻まわりをフィットさせている。そのダーツがわりになっているものがヨークというわけ。

●ファースト・バック・スタイル（First back style）

ヨークの縫い目にポケットを切りこんだスタイル。

(4) フライ・フロント（Fly front）

ジーンズの前合わせの部分、フロント・フライ。

●ボタン・フライ（Button fly）

ボタンでとめたもの。

●ジップ・フライ（Zipper fly）

ジッパーでとめたもの。

●レース・フライ（Lace fly）

ひも止め式のもの。

(5) ベルト・ループ (Belt loop)

バンド通しのこと。

●レギュラー・ループ (Regular loop)

普通のベルト通しの輪。

●タンナー・ループ (Tunnel loop)

野球のユニフォームに見られるような幅広のベルト通し。

●X・ループ (X loop)

X字型のループ。ファンシー・ジーンズにときどき見られる。

●ナロ・ループ (Narrow loop)

細いベルト (スキニー・ベルト) を通すためにつけられた細いループ。

●ハンマー・ループ (Hammer loop)

ワーク・ジーンズ、オーバー・オールにみられるディテール。後左ポケットの下と、脇縫いにはさみ込んだ共布のループ。もともと、大工さんがハンマーをかけるためにデザインされたものである。

(6) ベルト (Belt)

●ウエスタン・ベルト (Western belt)

アメリカ西部のカウボーイが用いたベルト。革に模様を細工してあり、幅広で大きいバックルが特長的。

(7) リベット

クラシックなジーンズのポケットの端に打たれている、銅製のビョウのことで、ポケット部のほころびを防ぐためのカンヌキがわりに使われたもので、正しくは“銅製のリベット” (銅製のビョウ) と呼ばれている。

(8) レザー

●オイルチケット (Oil ticket)

油に浸した皮のことをオイル・レザーというが、これにブランド名ロット・ナンバー (整理番号) ランドリーインストラクション (洗濯注意) ウエスト・サイズなどを焼きごてで表示したもの。通常、ジーンズの後の右ポケットの上に付けられる。

●ネックド・レザー (Necked leather)

飛行士とかオートレーサーなどが着ている「レザー・ジャック」に見られるような、あまりつやもなく、染色されていない生の表皮のこと。

●バーニッシュド・レザー (Varnished leather)

バーニッシュには「ニスを塗る」の意味。ニスを塗って光らせ仕上げの表皮のこと。却って古い良き時代のジーンズリバイバルとして「復刻版」として再び生産されるようになった。当然ロールアップして裏を見せるはき方が着こなしのポイントである。

6. トップスの用語

ジーンズ・トップスに関する用語は次の通り。

●アイク・ジャケット (Ike jacket)

第二次大戦中に、主として米陸軍に着用されたジャケットの一種。衿はノッチド・カラー、ウエストに幅広のバンドが付いた丈の短いジャンパー。尚、時の連合軍総司令官、アイゼンハワーが愛用していたことから、アイクジャケットと呼ばれている。(=バトル・ジャケット)

●アーミー・シャツ (Army shirt)

軍隊調のヘビー・デューティなシャツ。なかでもアメリカ陸軍のそれをいうことが多く、アーミー・ルックやGIルックのための重要なワードローブに数えられる。チノ・クロスと呼ばれる丈夫な厚手綾織のコットン地を使い、色はおおむねカーキ色。エポーレット、胸のパッチ&フラップポケットといったデザインが特徴。若ものたちの間では、ほんものの中古品を着るのがイキとされている。

●アイビエーターズ・コート (Aviators coat)

アイビエーターとは飛行士とか飛行家のことで、その飛行服からヒントを得たアウター・コートをさす。デザインの特徴としては、傾斜をもたせた打ち合わせ、ジッパーによるアクセント、それに毛皮つきの衿などがあげられる。

●アラン・セーター (Aran sweater)

フィッシャーマン・セーターの一種。アイルランドの西部、グルウェイ湾に浮かぶアラン諸島の漁師が着用したのが始まり。ウールの生成りの糸を用い、無地の立体的な凹凸が、アラン・セーターの基本。海水をはじき(未脱脂の糸使用)、毛足をからませて空気を通さない。いずれも極寒の自然条件に耐える工夫。

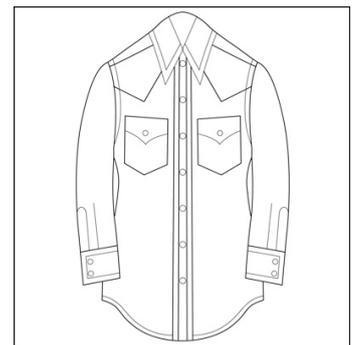
●イン・オア・アウター・シャツ (In or outer shirt)

スラックスに突っこんでも、外に出してもどちらでも着られるスポーツシャツの総称。ディテール・デザインはさまざまだが、共通しているのは裾のドレスシャツのようなテイル(尾)がなく、短い丈になっていることと脇にスリットがあげられていること。

例 アロハシャツ、イン・アンド・アウター (In and outer) ともいう。

●ウエスタン・シャツ (Western Shirt)

アメリカ西部のカウボーイたちの服装に見られる。ファンシーなディテール・デザインを特徴としており、それは山型のヨーク(胸から背中にかけての切替)、切替を入れたカウス、W型のポケットフラップに顕著にみられる。生地はデニム、ダンガリーなど厚手のものからシーチング、ガーゼ・クロスにいたる軽いものまでさまざまであり、機能性を第一に考えたアウターシャツとなっている。ドット・ボタン(鋸状の打ちつけメタル・ボタン)がつけられているのも機能性からきているわけである。ウエスタンルックやワークルックの流行で一躍脚光を浴び、いまではさまざまな分野にファッション衣料として着られている。



●ウエスタン・ショート・ジャック (Western short jacks)

俗に「ヒップスター」などともいわれるように、ちょうど着丈がヒップにとどく程度の長さをもったジャンパーをいい、主にデニムで作られる。ディテール、デザインの特徴としては胸の部分につけられたヨークと対照的な色系によるステッチワークである。

●エスニック・シャツ (Ethnic shirt)

「人種的な・民族的な・種族的な」また「異邦人の・異教徒の」といった意味。つまり、民族調の柄、色で仕立てたシャツ。

●**オイルド・セーター (Oiled sweater)** セーター本来の機能性と持ち味を 100%発揮し、もっともセーターらしいセーターとされるクラシックなクルー・ネック・セーター。羊毛脂を脱脂せず、防水性、保温性、防湿性を第一に考えてつくられていることからこの名がある。

●**カットソー**

Cut and Sewn ; 正しくは「カット・アンド・ソーン」、ニット（編み物）の生地を「裁断」した後に「縫製」すること。またそのようにして製造されたTシャツなどの製品のこと。セーターのように「糸」から直接「製品」に転ずる製品と異なる工程意識からの言語。

●**キャバリー・シャツ (Cavalry Shirt)**

キャバリーマン、つまり「騎兵」の着ているシャツからヒントを得た、胸に当て布を取りつけたアウターシャツをいう。別にビブ・フロント・シャツとも呼んでいる。

●**コンボイ・コート (Convoy coat)**

第二次大戦中、アメリカの爆撃機の飛行士たちが用いたコートのことで、フードとダブル・クロージャー（内側ジッパー、外側ボタンどめ）フロントを特徴としたもの、多くは綿で作られ、とくに注目すべきなのはスプリット・フードにある。これは中央にジッパーを配して開閉できるようになっており、もちろん身頃からの取りはずしも可能。

●**サファリ・コート (Safari coat)**

サファリジャケットの正式名称。また、サファリジャケットのディテールを特徴としたコートのことをいう場合もある。

本来アフリカ狩猟探検隊のために開発されたものであるが、現在ではその機能性あふれるデザインから、カジュアルなウェアとして一般的に用いられる。

●**C. P. Oアウター・シャツ (C.P.O. outer shirt)**

C. P. O. とは Chief Petty Officer の略で下士官をさす言葉。その下士官が着ているユニフォームからヒントを得て作られたのが、おなじみの C. P. O. シャツである。このシャツはメルヘンの無地や、赤と黒、黒と白、グレーとイエローなどの配色による大格子柄ウールだけでなくデニムやキャンバス、その他のコットン素材でも作られている。

●**スエットシャツ (Sweat shirt)**

スエットとは「汗」のことで、吸汗機能のために考えられたシャツである。素材は通常、綿メリヤスで裏をパイル状に起毛しているため、俗称「裏毛」とか「裏毛パイル」といわれる。最近この裏毛素材がスエットシャツのみならず、ジョギングパンツやトレーナー、場合によればアウター等、多目的に用いられ、その安価で機能的、かつファッションナブルな特色により大いに愛用されているホット素材である。

●**スタジアム・ジャンパー (Stadium jumper)**

通称スタジャン。本来の野球選手のベンチ・ウェアであり、登場は 16 年。ただしファッションとしてのデビューは 30 年代も後半になってからであり、流行は 50 年代に至って大流行。デザインは様々だが、普通身

頃と袖が別色になっており、胸や背中に所属団体名、イニシャルなどのマークを配する。衿、袖口、裾はライン入りのジャージー、フロントはスナップ・ボタン留め、ポケットは身頃の色と対照的な縁取り式のものが多い。素材は再生ウールのメルトン・タイプが本格的で、袖（または身頃）に革を用いたものが多い。類語ベースボール・ジャケット、グランド・ジャケット、ツートン・ジャケット、フットボール・ジャケットなど。

●スパニッシュコート＝ゴール・コート (Goal coat)

ストレートのホワイトジーンズやブルージーンズにピッタリのカジュアルコート。生地は普通コール天ないしはコットン・スエードが多く用いられ、裏地にはタータン・ウールとかパイル・ファブリック（ボア）を張りつけたヒザ上丈くらいのアウター・コートである。

このコートの大きな特徴はニット・ジャージーを使った大きな衿にあり、この衿を「スパニッシュ・カラー」と呼んでいるところから、スパニッシュ・コートあるいはスパニー・コートなどとも呼ばれている。

●ダム・ジャケット (Dumb jacket)

ダムには「ばかな」「まぬけな」の意味があるが、つまりは街のチンピラが、好んで着るようなピカピカした黒の皮ジャンパーをさしている。また、メルトンのグランド・ジャンパーに衿をつけたようなものも、ときどき「ダム・ジャケット」と呼ばれる。

●タンク・トップ (Tank-top)

ランニングシャツスタイルのニットシャツのこと。最近ではAシャツなどとも呼んでいる。

●チンプ・ジャケット (Chimp jacket)

毛足の長いパイル・ファブリック（ボア）で作ったジャンパーのこと。

一見、チンパンジーのぬいぐるみの感じがするところから、特にアメリカで使われている。

●ティ・シャツ (T-shirt)

もともと軍隊で肌着として着られていたものが広がり、いわゆる丸首肌着として定着したが、一方、その外衣化が始まり、いまやカジュアルなアウター・シャツの代表的存在として定着したのが、このTシャツ。原型は丸首、半袖で広げると「T字型」になることからこの名がある。デザインの変化や種類も多く、いまでは夏はおろか、1年中若ものたちに愛用されるポピュラーなシャツとなっている。

●トウ・コート (Tow coat)

いわゆるダッフル・コート、フーデッド・コートの別名。アイルランドやノルウェーの漁師が引き船用に着ていたところからこの名がある。

●トレーナー (Trainer)

スポーツ選手が競技の前後にはおるTシャツ型のスポーツウェア。アイビー調の霜降りグレーのものが代表的とされ、コットン・ジャージーのほか、テリークロス（タオル地）などでつくられる。

スエットシャツというのが正確な名称

でトレーナーは日本でつけられたネーミング。最近ではフードつきとしたものも

あり、これはフーデッド・トレーナーと呼ばれる。

●ネル・シャツ

フランネルで作られたシャツの総称。ネルはフランネル Flannel の前半分が省略されてきた日本的な略

語。ちなみにフラノは後半分が省略されたわけであり、ともに日本でだけしか通用しない言葉である。

●パーカ（パルカ）（Parka）

フードつきとしたかぶり式のショートジャケット。本来これはロシア語で毛皮の上着とか、エスキモー人の防寒服を意味したが、現在ではアノラックやヤッケと同じ意味で用いられている。特にパイル・ファブリックでつくられたビーチウェアをいうことが多く、これには、ヨッティング・パーカ（ヨット・パーカ）などがある。Tシャツやトレーナの延長上に位置するものとして人気が高い。

●ファーマー・シャツ（Farmer shirt）

お百姓さんの着るようなシャツという意味で、素朴な雰囲気とシンプルな形を特徴とするシャツをいう。多くは粗末な感じのコットン地で作られるシルエットもルーズ、ディテールもスタンド・カラーやバンド・カフスといったものになっている。

●フィールドジャケット（Field jacket） 荒野、原野を背景としたスポーツの上衣のことで、とくに英国で行われるハンティング、バード・ウォッチング、フィッシング、ホース・ライディングといったスポーツ上衣をきる例が多い。

●フィッシャマンセーター（Fisherman sweater）

本来、北欧アイルランドの労働着として伝統的に愛用されたものであり、羊毛をいったん脱脂し、さらにアザラシの脂を改めて加え、水をはじき断熱性機能を付与したもので英北部の漁民が愛用していた。したがって本来、生成が通常であるが、近代のものは着色したものが多い、編み目も独特の縄目模様のもので有名である。

●フィッシング・ベスト（Fishing Vest）

釣り人用のヘビーデューティなベスト。釣り道具小物などを入れるためのポケットがたくさんついているもの。丈は短く、ウエストに達しない。アウターウェアファッションとしても用いられる。

●フレンチ・ワーキング・シャツ（French working shirt）

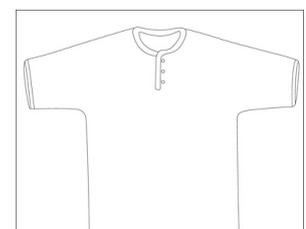
フランスの農民たちがよく着ているワークシャツで、それにモチーフを得たシャツを意味している。特徴は左右に3個ずつ計6個ついているマルチポケット、タブつきの袖、ジャケット・レングス（上着丈）など。生地はザックリした平織ホームスパン・コットンを始め、コットン・ベルベット、デニム、ガーゼ・クロス、コットン・ギャバジンなどいろんな生地が使われる。

●フリース・ジャケット

本来は羊の毛を刈り取るという意味。又は刈り取られた羊毛状の生地などをフリースと称した。近年新鋭の織物機械で、ソフトでかさ高な素材が作られるようになった。素材もポリエステル系となり、軽くて、ソフト、暖かでも大量生産により驚くほど安価な冬用ジャケット、ベスト素材として普及している。

●ベースボール・シャツ（Baseball shirt）

ベースボール・ジャンパー（グラウンド・ジャック）からアイデアを借りたシャツ・ジャックのこと。つまりベースボール・ジャンパーの袖口や裾口に見られるニット・ジャージをシャツの袖口と裾口に応用したもの。バギー・トップスの代表格。



●ヘンリーネックシャツ (Henley neck shirt)

正しくはヘンリーレガッタシャツという。テムズ河のヘンリーレガッタに因んでいる。首の部分がパイピングをほどこした独特のスタイルになっている。通常、天竺素材のニットで作られる。

●ボーリング・シャツ (Bowling shirt)

ボーリング・シャツは特に1950年代初期にアメリカで流行したシャツ。正確には「U.S. ボーリング・シャツ」と呼ばれる。これは、殆どがツートーン（2色使い）で、背中にはプリーツをとったり刺しゅうを施したりした派手なデザインを特徴としている。

別名、「スーベニア・シャツ」

●ボンバー・ジャケット (Bomber jacket)

第二次大戦の時、B25、B24、B17、B29などの爆撃兵たちの着ていたようなジャンパーのこと。オリジナルは光沢のある赤茶色の表革に生成色のボアを張りつけ、前はジッパーとスナップ・ボタンで二重になったウエスト・レングスのジャンパーであった。

●マッキノオーズ (Mackinaws)

マッキノオー・コート of 略称。マッキノオー・ブレードと呼ばれる大格子柄入りの毛布で作られたベルト付、ショールカラー、ボックス・プリーツなどを特徴とする。

尚、マッキノオーとは、アメリカ・ミシガン州の地名からとったと言われている。

●ライダージャケット (Rider jacket)

オートバイに乗るときのための軽快なジャンパー。黒表革のオートバイ乗り用のジャンパー。危険性防止という点から機能性、第一につくられている。裾口のベルト留めと、斜めにつけられたジッパー・フロントなどが特徴的。最近ではオートバイ・ブームもあって、ほんもののライダー・ジャケットを街着に転用したり、ファッション化したものがある。

●ランチ・コート (Ranch coat)

ランチとは「牧場」、または「牧童」のこと。カウボーイたちが着ているムトンの1枚皮で作った防寒用コートをさす。最近ではコットン・スエードで作られたものが目立つ。

●ランチ・ジャック (Ranch jack)

ランチ・コート of 丈をウエスト丈くらいでカットしたようなショート・ジャックをいう。素材はシープスキン、ムトンなどが本格的だが、コットン・スエードやコール天などでも作られている。型はシングル、ダブルのいずれもあるが、ボタンは決まって皮ボタンを使用している。

●ランバー・ジャック (Lumber jack)

ランバーは木材の意味。北アメリカやカナダの木こりたちが森林ばっさいの折に着たジャケット。素材は、明るく、派手な色使いの大格子柄ウールが多い。

●ランバー・ジャック・シャツ (Lumber jack shirt)

木こりが着ているような派手な格子柄ウールで作ったスポーツシャツをいう。衿はふつうオープン・カラー、ポケットは両脇につき、フラップつきを特徴としたものが多い。

●ワーク・シャツ (Work shirt)

仕事用のシャツと直訳されるが、そうしたイメージを持つ素朴なフィーリングのスポーツシャツを意味す

る。といって本来の仕事用シャツを含まないわけではない。多くはウール、コットン、フランネル、デニムなどを用いた厚手のアウターシャツでワークルックの演出には欠かせない。格子柄のウールシャツや綿ネル・シャツ、ダンガリー・シャツやファーマー・シャツといったところが代表的なもの。

7. グッズ・アクセサリーの用語

●アーミー・ミュージケット・バック (Army musette bag)

陸軍の野戦用に使われていた布製の小さなショルダー・バックが元祖。丈夫なキャンバス地で作られ、カーキ色とかダーク・グリーンが多い。

●アングル・ブーツ (Ankle boots)

くるぶしまでの深さのブーツを総称している。

●ウェリントン・ブーツ (Wellington boots)

ヒザ下くらいの深さのロングブーツのことで普通ソフトなレザーで作られる。ロング・ブーツのうちでも最もシンプルな型として知られているが、このブーツはワーテルローの戦いで、ナポレオンを破ったイギリスのアーサー・ウェズリー将軍（後のウェリントン公）の名に因んで名付けられたもの。ジョッキー・ブーツやトップ・ブーツのように折り返し（ターン・オーバー・トップ）がないところが大きな特徴で、色はタン・ブラウンが一般的。

●カウボーイ・ハット (Cowboy hat)

アメリカ西部のカウボーイがかぶった帽子。ツバが広く帽子のてっぺんに折り目がつけてあるのが特徴。

●クルー・ソックス (Crew socks)

スポーツ・カジュアル向きのソックスの一つ。厚手のリブ編みで、はき口に入れたラインが特徴。

●ジョドファー・ブーツ (Jodhpur boots)

乗馬用長ズボンの下にはく靴をいう。特徴は、クリス・クロス・ストラップと呼ばれる細い皮ヒモを巻きつけるようにして、バックル止めにしたくるぶしくらいまでの、いわゆるアングル・ブーツスタイル。

●スニーカー (Sneaker)

キャンバス地で作られたゴム底のスポーティーな靴、スエードのものもある。ジーンズにはぴったり。スニークとはこそこそ行くという意味で、歩いても音がしないことから、こう呼ばれるようになった。

●ディパック (Daypack)

リュックサック型のバックのこと。日帰り用バックという意味からきたもの。もとはサイクリング用であったが、アメリカの若者達の間で大流行し、ファッション化した。素材はキャンバス地、ナイロン等が多い。

●バンダナ (Bandana)

ネックチーフの一種、カウボーイがほこりよけに使ったもので、絞り染め柄を特長とする。

●ワーク・ブーツ (Work boots)

作業ブーツのことだが、現在ではカジュアルな服装に合わせてタウン・ブーツとしてもはかれている。底が厚く、歩きやすいブーツで、深さはくるぶしの上までやふくらはぎの真ん中くらいまでのが多い。